

糖尿病患者に朗報 鶴見病院が新機器導入

最長2週間、数値記録

痛み少なく 血糖値測定

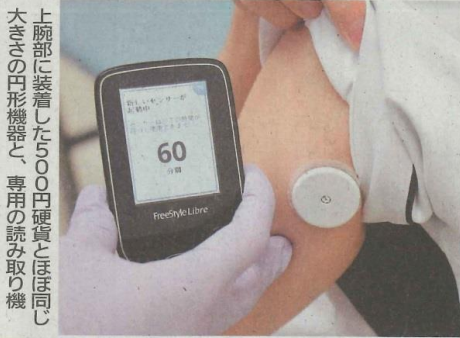
別府市の県厚生連鶴見病院は今春から、糖尿病患者の血糖値を測定する新たな機器を導入した。患者が装着するときの痛みはほぼなく、一度着けると最長2週間の測定値が記録されるという。同病院は開業医と連携し、より多くの患者の治療に役立ててもらうことにしている。

(坂本陽子)

糖尿病患者は1日に数回、針を指先に刺して血を採取し、血糖値を測定する必要があるので、採取時に痛みが伴うため、心理的な負担も。導入したのはセンサーと一体化した円形の機器で、500円硬貨とほぼ同じ大きさ。患者は上腕部に装着するだけで、センサーが持続的に血糖値を計測し、15分置きに最適化された平均値が記録される。防水加工されており、入浴もできる。

6月27日には日高周次糖尿病・代謝内科部長が市医師会学術研修会で講演。機器について説明し、地域の

年間約1600人の糖尿病患者を診察している鶴見開業医に連携を呼び掛け



上腕部に装着した500円硬貨とほぼ同じ大きさの円形機器と、専用の読み取り機



糖尿病患者に血糖値測定の新機器を装着する鶴見病院の日高周次部長

た。日高部長は「患者の中には夜中の低血糖に初めて気付くケースもあった。認知症の患者にも効果的だと思う」と述べた。機器の利用については「まずはかかりつけ医に相談してほしい」と話している。